

ポスター

ポスター6

病院情報システム

2022年11月19日(土) 09:00 ~ 10:00 J会場 (大ホールA・B)

[3-P-1-02] 患者・家族サポートセンター開設に伴う「入退院支援室」へのシステム対応

*上野 祐一郎¹、山田 佐恵美²、井手 健一郎³ (1.社会医療法人 雪の聖母会 情報システム室、2.社会医療法人 雪の聖母会 看護部、3.社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 入院支援室)

*Yuichiro Ueno¹, Saemi Yamada², Kenichiro Ide³ (1.社会医療法人 雪の聖母会 情報システム室, 2.社会医療法人 雪の聖母会 看護部, 3.社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 入院支援室)

キーワード：Hospitalization Support Room, Document Management, Clinical Flow

【背景】当院では、急性期医療機関として入院前～退院後までより一層安心安全な入院治療の提供を目的に、2021年4月患者・家族サポートセンター（以下 PFSC）を開設した。PFSCは、「地域連携推進室」「入退院支援室」「訪問生活支援室」「病床管理室」で構成され、これらが密に連携し、一貫した患者・家族の支援を行っている。【目的】様々な病院を訪問し、PFSCの体制原案を検討・準備していた。その中で、患者情報の共有化、「入退院支援室」業務のシステムのサポート、「病床管理室」の病床コントロールのためのシステム導入が必要ということになった。今回、「入退院支援室」へのシステムのサポートを行った部分について報告する。【方法】当院では、富士フィルムメディカルの統合診療支援プラットフォーム CITAの「クリニカルフロー」という機能を利用し、「入退院支援室」で行う入院前面談の聞き取り文書や同意書の管理等を行うこととした。実際には、① PFSCの各部署で管理したい患者情報の洗い出し・共通化した項目のピックアップと入力方法の検討、②電子カルテと CITAとの連携項目の検討、③「入退院支援室」で使用する「クリニカルフロー」の一覧表示の契機を検討・管理したい文書や項目の調整を行った。【結果】1年が経過し、常時500件近い患者情報の管理が出来ている。現場からは管理文書の見直し・追加依頼がくるようになった。情報システム課でもクリニカルフローの作成・変更できるような人材を教育し体制を作った。1患者複数面談管理ができないなどの課題も見えた。【考察】「入退院支援室」では、クリニカルフローの適用を通じて、電子カルテシステムを含めた現システム間の連携や情報管理などの理解が進んできた。これをベースとすれば、システムの有効利用をなお一層推進でき、業務改革の一助になると考えている。今後、病棟など様々な部署への展開も検討している。

患者・家族サポートセンター開設に伴う「入退院支援室」へのシステム対応

上野 祐一郎^{*1}、山田 佐恵美^{*2}、
井手 健一郎^{*3}

*1 社会医療法人 雪の聖母会 情報システム室、*2 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 看護部、

*3 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 入院支援室

System support for the "Hospitalization Support Room" associated with the opening of the Patient and Family Support Center

Yuichiro Ueno^{*1}, Saemi Yamada^{*2}, Kenichiro Ide^{*3}

*1 Information system room, Our Lady of the Snow Social Medical Corporation,

*2 Nursing department, St. Mary's Hospital,

*3 Hospitalization support room, St. Mary's Hospital

With the opening of the Patient and Family Support Center (PFSC), an Hospitalization Support Room (HSR) was established.

This time, I will report on the contents of using the system to improve the operational efficiency of HSR.

For pre-hospital interviews conducted in the hospital admission and discharge support room, we used a function called "Clinical Flow" to manage questionnaires and consent forms.

In fact, (1) reviewing patient information that each department of the PFSC wants to manage, picking up common items and examining input methods, (2) examining items for linking electronic medical records and CITA, (3) We examined the opportunity for listing the "Clinical Flow" used in the HSR and adjusted the documents and items that we wanted to manage.

As a result, one year has passed, and more than 500 patient information can be managed at all times. Requests for revisions and additions to management documents began to come in from the field. In the information system section, we have created a system by educating human resources who can create and change the "Clinical Flow". We also saw problems such as the inability to manage multiple interviews per patient.

Currently, through the application of "Clinical Flow", the understanding of cooperation and information management between current systems, including electronic medical record systems, has progressed. We believe that this will further promote the effective use of the system and help in operational reform.

Keywords: Hospitalization Support Room, Document Management, Clinical Flow

1. 結論

聖マリア病院では、急性期医療機関として患者に安心・安全な入院治療を入院前から退院後まで支援することを目的に、2021年4月に「患者・家族サポートセンター」(以下 PFSC)を開設した。PFSCは、「地域連携推進室」「入退院支援室」「訪問生活支援室」「病床管理室」の4部署で構成され、これらが密に連携し、一貫した包括的な患者と家族の支援を行っている。「入退院支援室」の面談患者数は、2022年3月までの1年間に6433件となっている。

「患者・家族サポートセンター」設立に対するプロジェクトは、正式に2020年8月より開始された。それ以前から、担当者が様々な病院を訪問し体制原案を検討・準備していた。その中で、患者情報の共有化の必要性、「入退院支援室」業務のシステム的なサポート、「病床管理室」の病床コントロールのためのシステム導入が必要ということになった。今回、「入退院支援室」の設置にあたり、業務効率化のためのシステム的なサポートを行った部分について報告する。

2. 目的

新たに設置された「入退院支援室」の業務をいかに効率よく運用するためには、システムの導入が必須であった。当院では、富士フィルムメディカルの統合診療支援プラットフォーム CITA を導入しており、この「クリニカルフロー」という機能を利用し、「入退院支援室」で行う入院前面談の聞き取り文書

や同意書の管理等を行うこととした。作成する文書も同じく富士フィルムメディカルの Yahgee を利用し、CITA から Yahgee 文書の作成状況をわかるようにした。なお、電子カルテシステムと Yahgee とのインターフェースは2011年から変わっておらず、統合インターフェースと呼ばれる標準に用意されているものに変更する必要もあったため、併せて対応した。

3. 方法

3.1 患者情報の共有化

3.1.1 管理したい情報と共通項目のピックアップ

もともと入院時には各病棟で患者の情報収集を行い、電子カルテシステムの患者 DB に入力している。「入退院支援室」では、この入力を行うこととし、項目の見直しを行った。その際に、PFSC の各部署で確認したい情報をピックアップした(表1)。また、PFSC の各部署で確認したい項目は、電子カルテシステムの患者プロフィールにタブで分けて確認できるようにした(図1)。また、その情報の中で、共通の項目についてピックアップした。



図 1 患者プロフィール画面例

3.1.2 電子カルテとCITAとの連携項目の検討

前項でピックアップした共通の項目については CITA に連携するという方針を立てた。電子カルテシステムとCITAとの連携を随時追加できるようにするために、Yahgee と CITA の標準のインターフェースに変更した。また、電子カルテの患者プロフィールに掲載した項目については CITA との連携が可能にした。

3.2 「クリニカルフロー」への設定項目の調整

3.2.1 システム連携の仕組みの理解

「クリニカルフロー」をどのような画面設定にするかは、現場で利用する職員(医事・看護師・ソーシャルワーカー等)の理解が必要となってくる。PFSC で行っていた打ち合わせに何度も参加し、そのたびにシステム上の連携の仕組みや制限の説明を行い、理解してもらった上で内容の調整を行った。

3.2.2 「クリニカルフロー」の設定項目

「入退院支援室」での運用を踏まえて、どのような文書を管理するのか、またその文書は Yahgee で作成するのか、紙様式をスキャンするのかなど随時調整した。その結果、表 1 のような設定を行うことになった。「クリニカルフロー」に表示する契機は「入退院支援室」で受付の際に「入院前支援記録」を作成した時点、「クリニカルフロー」の一覧から削除するのは実際に入院が確認できて「入院前支援記録」を「入院済み」で保存した時点とした。

表 1 「クリニカルフロー」画面設定項目

No	表示対象文書名	カテゴリ	ステータス (Yahgee文書は保存ステータスを記載)	保存方法
1	入院予約書	クリニカルフローで直接操作	未作成 (使用しない) 作成中 作成済み	紙保存
2	入院診療計画書	クリニカルフローで直接操作	未作成 (使用しない) 作成中 作成済み	紙保存
3	患者パス	クリニカルフローで直接操作	未作成 作成不要 (使用しない) 作成済み	
4	造影検査説明・同意書	クリニカルフローで直接操作 スキャン(PDF)	未作成 作成不要 作成中 作成済み 未作成 (使用しない) (使用しない) スキャン済み	スキャン 種別コード: 620011, 620012, 620014, 620015, 620016, 620017, 620020
5	鑑別報告書	クリニカルフローで直接操作	未作成 作成不要 作成中 作成済み	薬剤システムからの印刷帳票
6	スクリーニングシート	クリニカルフローで直接操作	未作成 (使用しない) 作成中 作成済み	紙保存
7	抗菌薬問診票	クリニカルフローで直接操作 スキャン(PDF)	未作成 (使用しない) (使用しない) スキャン済み	スキャン 種別コード: 890011
8	ご入院時のご確認	クリニカルフローで直接操作	未作成 (使用しない) 作成中 作成済み	紙保存
9	(麻酔科)問診票	Yahgee	未作成 作成不要 一時保存 確定保存	Yahgee文書名:問診票
10	麻酔問診票(患者記入)	クリニカルフローで直接操作	未作成 作成不要 (使用しない) 渡し済み	Yahgee文書名:術前問診票
11	手術・処置・検査についての説明/同意書	クリニカルフローで直接操作	未作成 作成不要 作成中 作成済み	紙保存
12	麻酔に関する説明・同意書	クリニカルフローで直接操作	未作成 作成不要 作成中 作成済み	紙保存
13	麻酔科患者パス	クリニカルフローで直接操作	未作成 作成不要 作成中 作成済み	
14	高気圧酸素療法についての説明	クリニカルフローで直接操作	未作成 作成不要 作成中 作成済み	紙保存
15	高気圧酸素療法治療指示書	クリニカルフローで直接操作	未作成 作成不要 作成中 作成済み	電子カルテの院内紹介で依頼
16	同種血輸血同意書	クリニカルフローで直接操作 スキャン(PDF)	未作成 作成不要 作成中 作成済み 未作成 (使用しない) (使用しない) スキャン済み	スキャン 種別コード: 650010, 650011
17	血漿分画製剤使用に関する同意書	クリニカルフローで直接操作 スキャン(PDF)	未作成 作成不要 作成中 作成済み 未作成 (使用しない) (使用しない) スキャン済み	スキャン 種別コード: 650014
18	自己血輸血同意書	クリニカルフローで直接操作 スキャン(PDF)	未作成 作成不要 作成中 作成済み 未作成 (使用しない) (使用しない) スキャン済み	スキャン 種別コード: 650012

4. 結果

4.1 現在の状況

1年経過し、500件以上の患者情報の管理が出来るようになった。「入退院支援室」からは管理文書の内容見直しや追加依頼がくるようになった。情報システム課でも「クリニカルフロー」の作成・変更できるような人材を教育し体制を作った。現在、「クリニカルフロー」表示の契機となる文書である「入院前支援記録」に変わり、「入院前チェックリスト」を新たに作成し、一部の診療科で試行している(図2、図3)。うまくいけば、全診療科に対応していく予定である。

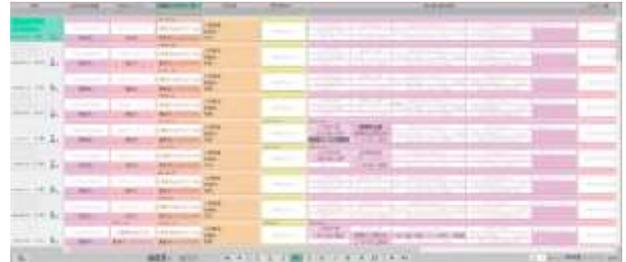


図 2 「クリニカルフロー」画面例



図 3 「入院前チェックリスト ver2」画面例

4.2 課題

「クリニカルフロー」を利用した入院前面談の管理を行ってきた中で、システムの課題として以下のようなことが挙げられた。

- ①一人の患者に対して複数面談の管理ができない
入院予定日が異なる複数の診療科から入院前面談の依頼がくることがあるが、「クリニカルフロー」では一人の患者に対して複数行表示することができない。そのため「複数面談あり」という項目を「クリニカルフロー」に追加し管理することとした。ベンダーには対応依頼中。
- ②再入院の際に前回入院時のスキャン文書が表示
「クリニカルフロー」の中に同意書などのスキャン文書を表示するようにしているが、再入院の患者の場合には前回入院時のスキャン文書が表示されている。ベンダーには対応依頼中。
- ③表示件数制限
表示件数が1000件という制限があることが分かり、今後「クリニカルフロー」に表示する内容を検討する際に注意が必要。また、運用上の課題としては、「クリニカルフロー」の一覧の中に入院キャンセルなどの影響が残っているものが出てきており、棚卸が必要である。

5. 考察

「入退院支援室」では、「クリニカルフロー」の適用を通じて、電子カルテシステムを含めた現システム間の連携や情報管

理などの理解が進んできた。これをベースとすれば、システムの有効利用をなお一層推進でき、業務改革の一助になると考えている。

また、「クリニカルフロー」については、今後、病棟や患者支援部など様々な部署への展開も検討しているところである。